

第2講

平面上のベクトルと図形

ポイント ① 位置ベクトル

位置ベクトルの表し方

平面上で、1点Oを固定して考えると、平面上の任意の点Pの位置は \overrightarrow{OP} で定めることができる。 $\overrightarrow{OP}=\vec{p}$ とおくとき、この \vec{p} を点Oを基準とする点Pの位置ベクトルといい、 $P(\vec{p})$ と表す。

2点 $A(\vec{a})$ 、 $B(\vec{b})$ について、 $\overrightarrow{AB}=\vec{b}-\vec{a}$ と表せる。

(注) 以後、特に断りが無い限り、点Oを基準とする位置ベクトルを考える。

線分の内分点・外分点の位置ベクトル

異なる2点A、Bの位置ベクトルをそれぞれ \vec{a} 、 \vec{b} とする。

(ア) 線分ABを $m:n$ に内分する点Pの位置ベクトル \vec{p} は

$$\vec{p} = \frac{n\vec{a} + m\vec{b}}{m+n}$$

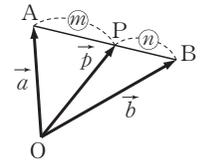
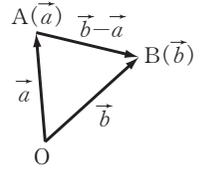
特に、線分ABの midpoint Mの位置ベクトル \vec{m} は、 $\vec{m} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2}$

(イ) 線分ABを $m:n$ ($m \neq n$)に外分する点Qの位置ベクトル \vec{q} は

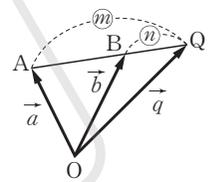
$$\vec{q} = \frac{-n\vec{a} + m\vec{b}}{m-n}$$

三角形の重心の位置ベクトル

3点 $A(\vec{a})$ 、 $B(\vec{b})$ 、 $C(\vec{c})$ を頂点とする $\triangle ABC$ の重心Gの位置ベクトル \vec{g} は、 $\vec{g} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3}$



$m > n$ のとき



チェック1 次の問いに答えよ。

(1) 2点 $A(\vec{a})$ 、 $B(\vec{b})$ を結ぶ線分ABについて、次の点の位置ベクトルを \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。

(i) 線分ABを1:2に内分する点P (ii) 線分ABを2:3に外分する点Q

(2) 3点 $A(\vec{a})$ 、 $B(\vec{b})$ 、 $C(\vec{c})$ を頂点とする $\triangle ABC$ の辺AB、BC、CAを2:1に内分する点をそれぞれL、M、Nとする。このとき、 $\triangle LMN$ の重心Gの位置ベクトルを \vec{a} 、 \vec{b} 、 \vec{c} を用いて表せ。

ポイント ② 3点が一直線上にある条件

異なる2点A、Bと任意の点Pについて

3点P、A、Bが一直線上にある $\iff \overrightarrow{AB} \parallel \overrightarrow{AP}$ または $\overrightarrow{AP} = \vec{0} \iff \overrightarrow{AP} = k\overrightarrow{AB}$ となる実数kがある

例 異なる2点 $A(\vec{a})$ 、 $B(\vec{b})$ について、 $P(2\vec{a} + \vec{b})$ 、 $Q(-\vec{a} + 4\vec{b})$ 、 $R(3\vec{a})$ のとき、3点P、Q、Rが一直線上にあることは以下の手順で示す。

(i) \overrightarrow{PQ} 、 \overrightarrow{PR} をそれぞれ \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表す。

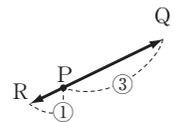
$$\overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OP} = (-\vec{a} + 4\vec{b}) - (2\vec{a} + \vec{b}) = -3\vec{a} + 3\vec{b}$$

$$\overrightarrow{PR} = \overrightarrow{OR} - \overrightarrow{OP} = 3\vec{a} - (2\vec{a} + \vec{b}) = \vec{a} - \vec{b}$$

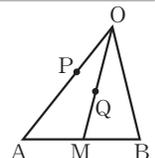
(ii) \overrightarrow{PQ} を $k\overrightarrow{PR}$ (kは実数)の形に表す。

$$\overrightarrow{PQ} = -3(\vec{a} - \vec{b}) = -3\overrightarrow{PR}$$

したがって、3点P、Q、Rは一直線上にある。



チェック2 右図の $\triangle OAB$ において、辺OAを2:3に内分する点をP、辺ABの中点をM、線分OMを4:3に内分する点をQとする。 $\overrightarrow{OA}=\vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB}=\vec{b}$ とすると、3点P、Q、Bが一直線上にあることを示せ。



◆ポイント ③ ベクトルと三角形の面積

右図の△OABにおいて、 $\vec{OA}=\vec{a}$, $\vec{OB}=\vec{b}$, $\angle AOB=\theta(0^\circ<\theta<180^\circ)$ とすると、△OABの面積Sは
 $S=\frac{1}{2}|\vec{a}||\vec{b}|\sin\theta$ から θ を消去して

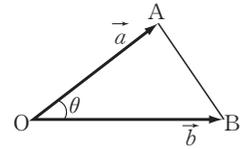
$$S=\frac{1}{2}\sqrt{|\vec{a}|^2|\vec{b}|^2-(\vec{a}\cdot\vec{b})^2}$$

$\vec{a}=(a_1, a_2)$, $\vec{b}=(b_1, b_2)$ とすると

$$S=\frac{1}{2}\sqrt{|\vec{a}|^2|\vec{b}|^2-(\vec{a}\cdot\vec{b})^2}$$

$$=\frac{1}{2}\sqrt{(\sqrt{a_1^2+a_2^2})^2(\sqrt{b_1^2+b_2^2})^2-(a_1b_1+a_2b_2)^2}=\frac{1}{2}\sqrt{(a_1b_2-a_2b_1)^2}$$

よって、 $S=\frac{1}{2}|a_1b_2-a_2b_1|$



チェック3 次の問いに答えよ。

- (1) 3点O, A, Bについて、 $|\vec{OA}|=4$, $|\vec{OB}|=3$, $\vec{OA}\cdot\vec{OB}=6$ のとき、△OABの面積を求めよ。
- (2) 3点A(2, 1), B(3, -1), C(5, 3)について、△ABCの面積を求めよ。

◆ポイント ④ ベクトル方程式

ある図形を定点の位置ベクトルや方向ベクトルを用いて表した式をベクトル方程式という。

直線のベクトル方程式

(ア) 定点A(\vec{a})を通り、 \vec{v} を方向ベクトルとする直線 ℓ

$$\vec{p}=\vec{a}+t\vec{v}(t\text{は実数})$$

このとき、 t を媒介変数という。

(イ) 異なる2点A(\vec{a}), B(\vec{b})を通る直線 ℓ

$$\vec{p}=(1-t)\vec{a}+t\vec{b}(t\text{は実数})\cdots\cdots\textcircled{1}$$

また、①で $1-t=s$ とおくと

$$\vec{p}=s\vec{a}+t\vec{b}(s+t=1)\cdots\cdots\textcircled{2}$$

特に、①で $0\leq t\leq 1$ のときや、②で $s\geq 0, t\geq 0$ のときは、

点Pは線分AB上にある。

(ウ) 定点A(\vec{a})を通り、 $\vec{0}$ でないベクトル \vec{n} を法線ベクトルとする直線 ℓ

$$\vec{n}\cdot(\vec{p}-\vec{a})=0$$

円のベクトル方程式

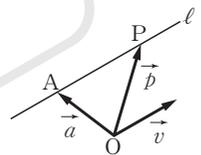
(エ) 中心C(\vec{c}), 半径 r の円

$$|\vec{p}-\vec{c}|=r$$

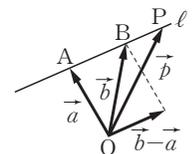
(オ) 2点A(\vec{a}), B(\vec{b})を直径の両端とする円

$$(\vec{p}-\vec{a})\cdot(\vec{p}-\vec{b})=0$$

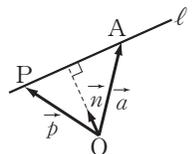
(ア)



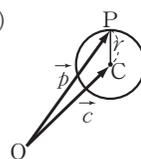
(イ)



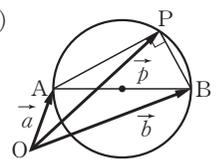
(ウ)



(エ)



(オ)



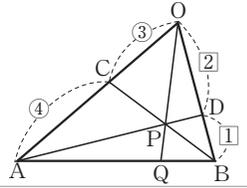
チェック4 定点A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c})と任意の点P(\vec{p})に対して、次の条件を満たす図形のベクトル方程式を求めよ。ただし、(1)~(3)は媒介変数 t を用いて表せ。

- (1) 定点D($2\vec{a}$)を通り、 \vec{v} を方向ベクトルとする直線
- (2) 異なる2点D($2\vec{a}$), E($3\vec{b}$)を通る直線
- (3) 異なる2点D($2\vec{a}$), E($3\vec{b}$)を結ぶ線分
- (4) 定点F($\vec{a}+\vec{b}$)を通り、 $\vec{0}$ でないベクトル \vec{n} を法線ベクトルとする直線
- (5) 中心G($3\vec{c}$), 半径2の円
- (6) 2点H($-\vec{a}$), I($\vec{b}+\vec{c}$)を直径の両端とする円

例題 1 2直線の交点の位置ベクトル

右図の△OABにおいて、辺OAを3:4に内分する点をC、辺OBを2:1に内分する点をD、線分ADと線分BCの交点をPとする。また、直線OPと辺ABの交点をQとする。 $\vec{OA}=\vec{a}$ 、 $\vec{OB}=\vec{b}$ とするとき、次の問いに答えよ。

- (1) \vec{OP} を \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。 (2) \vec{OQ} を \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。



アプローチ

(1) 線分ADと線分BCの交点Pは、線分ADおよび線分BCの内分点が点Pで一致していると考え。したがって、次の手順で求める。

- (i) $AP:PD=s:(1-s)$ (s は実数) とおき、 \vec{OP} を s, \vec{a}, \vec{b} を用いて表す。①
 (ii) $BP:PC=t:(1-t)$ (t は実数) とおき、 \vec{OP} を t, \vec{a}, \vec{b} を用いて表す。②
 (iii) ①、②の2通りで表した \vec{OP} について、

1次独立なベクトルの性質

$\vec{a} \neq \vec{0}$ 、 $\vec{b} \neq \vec{0}$ で、 \vec{a} と \vec{b} が平行でないとき

$$k\vec{a} + l\vec{b} = k'\vec{a} + l'\vec{b} \iff k=k', l=l' (k, l, k', l' \text{ は実数})$$

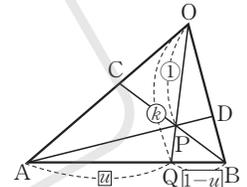
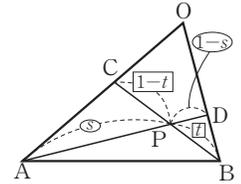
を利用して係数比較を行い、 s, t の連立方程式を作る。

- (iv) (iii)の連立方程式を解き、 s の値を①に(または t の値を②に)代入する。

(2)(i) 3点O, P, Qは一直線上にあるから $\vec{OQ}=k\vec{OP}$ (k は実数) とおき、 \vec{OQ} を k, \vec{a}, \vec{b} を用いて表す。③

- (ii) $AQ:QB=u:(1-u)$ (u は実数) とおき、 \vec{OQ} を u, \vec{a}, \vec{b} を用いて表す。④
 (iii) ③、④より、(1)と同様に k, u の値を求める。

また、点Qが直線AB上にあるから、③の式で \vec{a} と \vec{b} の係数の和が1であることより k の値を求める方法もある。(類題1(2)の別解参照。)



解答

(1) $AP:PD=s:(1-s)$ (s は実数) とおくと

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= (1-s)\vec{OA} + s\vec{OD} = (1-s)\vec{OA} + s \cdot \frac{2}{3}\vec{OB} \\ &= (1-s)\vec{a} + \frac{2}{3}s\vec{b} \quad \dots\dots ① \end{aligned}$$

$BP:PC=t:(1-t)$ (t は実数) とおくと

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= t\vec{OC} + (1-t)\vec{OB} = t \cdot \frac{3}{7}\vec{OA} + (1-t)\vec{OB} \\ &= \frac{3}{7}t\vec{a} + (1-t)\vec{b} \quad \dots\dots ② \end{aligned}$$

$\vec{a} \neq \vec{0}$ 、 $\vec{b} \neq \vec{0}$ で、 \vec{a} と \vec{b} は平行でないから、①、

②より

$$1-s = \frac{3}{7}t, \quad \frac{2}{3}s = 1-t$$

これを解くと、 $s = \frac{4}{5}$ 、 $t = \frac{7}{15}$

$$s = \frac{4}{5} \text{ を ① に代入して、 } \vec{OP} = \frac{1}{5}\vec{a} + \frac{8}{15}\vec{b}$$

(2) $\vec{OQ} = k\vec{OP}$ (k は実数) とおくと

$$\vec{OQ} = k\left(\frac{1}{5}\vec{a} + \frac{8}{15}\vec{b}\right) = \frac{k}{5}\vec{a} + \frac{8k}{15}\vec{b} \quad \dots\dots ③$$

$AQ:QB=u:(1-u)$ (u は実数) とおくと

$$\begin{aligned} \vec{OQ} &= (1-u)\vec{OA} + u\vec{OB} = (1-u)\vec{a} + u\vec{b} \quad \dots\dots ④ \\ \vec{a} \neq \vec{0}, \vec{b} \neq \vec{0} \text{ で、 } \vec{a} \text{ と } \vec{b} \text{ は平行でないから、 } ③, \end{aligned}$$

④より

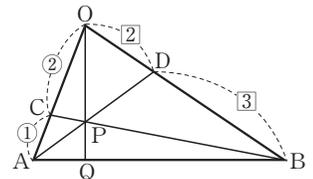
$$\frac{k}{5} = 1-u, \quad \frac{8k}{15} = u$$

これを解くと、 $k = \frac{15}{11}$ 、 $u = \frac{8}{11}$

$$u = \frac{8}{11} \text{ を ④ に代入して、 } \vec{OQ} = \frac{3}{11}\vec{a} + \frac{8}{11}\vec{b}$$

類題 1 右図の△OABにおいて、辺OAを2:1に内分する点をC、辺OBを2:3に内分する点をD、線分ADと線分BCの交点をPとする。また、直線OPと辺ABの交点をQとする。 $\vec{OA}=\vec{a}$ 、 $\vec{OB}=\vec{b}$ とするとき、次の問いに答えよ。

- (1) \vec{OP} を \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。 (2) \vec{OQ} を \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。



例題 2 平面上の点の存在範囲

次の問いに答えよ。

- (1) 右図で与えられた△OABに対して

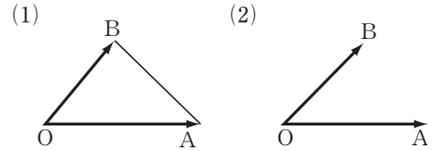
$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB} \quad (s, t \text{ は実数で, } s \geq 0, t \geq 0, s+t \leq \frac{1}{3})$$

で表される点Pの存在範囲を図示せよ。

- (2) 右図で与えられた3点O, A, Bに対して

$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB} \quad (s, t \text{ は実数で, } 0 \leq s \leq 1, 1 \leq t \leq 2)$$

で表される点Pの存在範囲を図示せよ。



アプローチ

- (1) 一直線上にない3点O, A', B'に対して

$\vec{OP} = \alpha\vec{OA}' + \beta\vec{OB}' \quad (\alpha \geq 0, \beta \geq 0, \alpha + \beta \leq 1) \iff$ 点Pの存在範囲は△OAB'の内部および周…⊗を利用する。

- (i) 不等式 $s+t \leq \frac{1}{3}$ の右辺が1となるように両辺を3倍する。
- (ii) $s\vec{OA} + t\vec{OB}$ について、係数を $3s, 3t$ とするために、 $3s(\frac{1}{3}\vec{OA}) + 3t(\frac{1}{3}\vec{OB})$ と変形する。
- (iii) $\frac{1}{3}\vec{OA} = \vec{OA}'$, $\frac{1}{3}\vec{OB} = \vec{OB}'$ とおくことで、⊗を利用できる形を作り出す。

- (2) 条件式より s, t は独立に動くので、まず片方の変数を固定して考える。

- (i) t を固定し、 s を $0 \leq s \leq 1$ の範囲で移動して得られる線分を求める。
- (ii) (i)で求めた線分について、 t を $1 \leq t \leq 2$ の範囲で移動して得られる図形を求める。

解答

(1) $s+t \leq \frac{1}{3}$ より、 $3s+3t \leq 1$

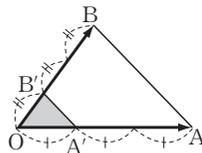
$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB} = 3s(\frac{1}{3}\vec{OA}) + 3t(\frac{1}{3}\vec{OB})$$

ここで、 $\frac{1}{3}\vec{OA} = \vec{OA}'$, $\frac{1}{3}\vec{OB} = \vec{OB}'$ を満たす点

A', B'をとると

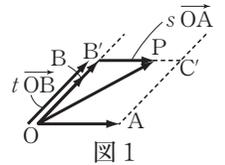
$$\vec{OP} = 3s\vec{OA}' + 3t\vec{OB}' \quad (3s \geq 0, 3t \geq 0, 3s+3t \leq 1)$$

よって、点Pの存在範囲は右図の△OAB'の内部および周である。

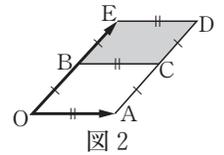


(2) まず、 t を固定して、 $t\vec{OB} = \vec{OB}'$ とすると $\vec{OP} = s\vec{OA} + \vec{OB}'$

ここで、 s を $0 \leq s \leq 1$ の範囲で変化させると、点Pは図1のように、線分B'C'上を動く。



次に、 t を $1 \leq t \leq 2$ の範囲で変化させると、線分B'C'は図2の線分BCから線分EDまで平行に動く。



したがって、 $\vec{OD} = \vec{OA} + 2\vec{OB}$, $\vec{OE} = 2\vec{OB}$ とおくと、点Pの存在範囲は図2の平行四辺形BCDEの内部および周である。

類題 2 次の問いに答えよ。

- (1) 右図で与えられた△OABに対して

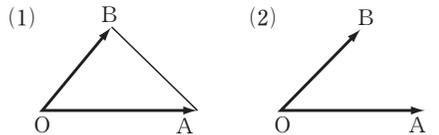
$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB} \quad (s, t \text{ は実数で, } s \geq 0, t \geq 0, s+2t \leq 2)$$

で表される点Pの存在範囲を図示せよ。

- (2) 右図で与えられた3点O, A, Bに対して

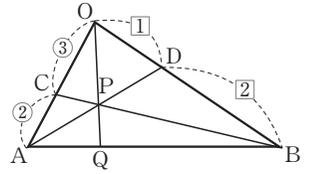
$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB} \quad (s, t \text{ は実数で, } 1 \leq s \leq 2, 1 \leq t \leq 2)$$

で表される点Pの存在範囲を図示せよ。



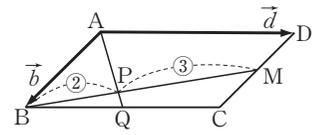
◆パート 2 (p.10, 11)

8 右図の△OABにおいて、辺OAを3:2に内分する点をC、辺OBを1:2に内分する点をD、線分ADと線分BCの交点をPとする。また、直線OPと辺ABの交点をQとする。 $\vec{OA}=\vec{a}$ 、 $\vec{OB}=\vec{b}$ とすると、次の問いに答えよ。 ⇒例題1



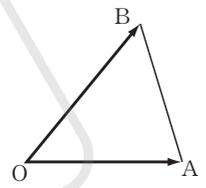
- (1) \vec{OP} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。
- (2) \vec{OQ} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

9 右図の平行四辺形ABCDにおいて、辺CDの中点をM、線分BMを2:3に内分する点をP、直線APと辺BCの交点をQとする。 $\vec{AB}=\vec{b}$ 、 $\vec{AD}=\vec{d}$ とすると、次の問いに答えよ。 ⇒例題1



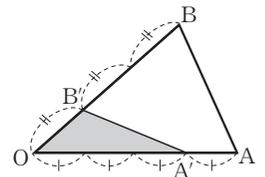
- (1) \vec{AP} を \vec{b} , \vec{d} を用いて表せ。
- (2) AP:PQ, BQ:QC を求めよ。

10 右図の△OABに対して、点Pが $\vec{OP}=s\vec{OA}+t\vec{OB}$ (s, t は実数)で表されるとする。 s, t が次の条件を満たすとき、点Pの存在範囲をそれぞれ図示せよ。 ⇒例題2



- | | |
|--|--|
| (1) $s+t=\frac{1}{2}$ | (2) $s \geq 0, t \geq 0, 3s+2t=6$ |
| (3) $s \geq 0, t \geq 0, \frac{s}{2}+t \leq \frac{1}{3}$ | (4) $0 \leq s \leq 2, 0 \leq t \leq 3$ |

11 右図の△OABにおいて、 $\frac{3}{4}\vec{OA}=\vec{OA}'$ 、 $\frac{1}{3}\vec{OB}=\vec{OB}'$ を満たす点をそれぞれA', B'とする。 $\vec{OP}=s\vec{OA}+t\vec{OB}$ (s, t は実数)で表される点Pが右図の△OAB'の内部および周上にあるとき、 s, t の満たす条件を求めよ。 ⇒例題2



◆パート 3

12 3点O(0, 0), A(-3, 1), B(6, 10)に対して、条件 $|4\vec{AP}+5\vec{BP}|=36$ を満たす動点Pの描く図形を求めよ。

13 座標平面上に3点O(0, 0), A(-1, 2), B(2, 1)がある。点Pが $\vec{OP}=\vec{OA}\cos\alpha+\vec{OB}\sin\beta$ (ただし、 $0 \leq \alpha \leq \pi, 0 \leq \beta \leq \pi$)を満たすとき、点Pの存在範囲を図示し、その図形の面積を求めよ。

14 △OABにおいて、OA=4, OB=5, AB=6, △OABの外心をHとする。 $\vec{OH}=s\vec{OA}+t\vec{OB}$ (s, t は実数)とすると、次の問いに答えよ。

- (1) 内積 $\vec{OA} \cdot \vec{OB}$ を求めよ。
- (2) 辺OA, OBの中点をそれぞれM, Nとすると、 \vec{HM} , \vec{HN} をそれぞれ s, t , \vec{OA} , \vec{OB} を用いて表せ。
- (3) \vec{OH} を \vec{OA} , \vec{OB} を用いて表せ。